「ジェンダー平等推進セミナー」を開催

ジェンダー平等・多様性の推進を すべての運動の中心に!

組合

ご自身の経験・体験談も含めた男女共同参画・ジェンダー平等推進の重要性や、連合のジェンダー平等推進の取組み等についてお話しいただきました。

生保労連では、「職場におけるジェンダー平等」「組合活動における男女共同参画」の推進に向けた取組みの一環として、例年、「ジェンダー平等推進セミナー」を開催しています。本年度は、6月9日に対面で開催し、合計12組合20名のみなさんにご参加いただきました。

テーマ ジェンダー平等・多様性の推進をすべての運動の中心に

講　師 日本労働組合総連合会　会長　芳野　友子　氏

講演のポイント

- (芳野会長の)労働組合でのキャリアは、中央執行委員として労働組合本部の活動に参加したことから始まった。当時は、女性は結婚・出産を機に退職し、「良き妻、良き母」になることが幸せであるという風土があった。今で言うアンコンシャス・バイアスが根強く、男性と比べると働く上でも女性は一歩下がって大人しくしている意識があったことから、初の女性中央執行委員としてプレッシャーを強く感じていた。同じ執行部の男性を説得できずに悔しい思いをしたこともあった。そんな中、職場の女性組合員の日常の悩みを聞いて、その課題を労働組合として会社との交渉を通じて解決することができた際に、多くの人が喜んでくれた体験は、自分の活動の原点となっている。理解者を増やし、「女性は結婚・妊娠・出産をすると退職する」等の思い込みを変えていった経験が、今の自分につながっている。
- 連合では、ジェンダー平等・多様性の推進をすべての運動の中心に据えて取組みを推進している。女性の活躍には就職・教育・継続・昇進と様々な場面で未だにハードルがあるが、1989年の連合結成時から男女平等な社会の実現をめざしており、組合活動において将来的に女性執行委員比率50%の完全なジェンダー平等となることを目標としている。これからも引き続き、意思決定の場に女性が一層参画していけるよう、力強く取組みを前進させていきたい。

参加者の感想

- 女性活躍のためにどういったことを心掛けて働きかけるべきなのか考えさせられた。
- 実体験を交えた講演で大変勉強になった。
- 組合活動に対して女性目線での話を聞くことができた点が良かった。
- ジェンダー平等における現状、連合の果たす役割や目標感について理解を深めることができた。　等